令和２年度厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業

児童虐待対応における AI 利用に関する調査研究

調査設問一覧

※こちらは、回答を記入いただく設問票ではありません。

「ＷＥＢ調査回答ガイド」をご確認いただき、WEB アンケートシステムからご回答ください。

（ご回答者様について）

設問１：ご回答者様の職名について該当するものを選択してください。（必須回答）

１）所長

２）所長以外の職名（職名：　　）

（貴児童相談所のおかれている状況について）

設問２：貴児童相談所の設置主体について該当するものを選択してください。（必須回答）

１）都道府県

２）指定都市・中核市・特別区

設問３：貴児童相談所の 2019 年度の児童虐待相談件数に該当するものをひとつ選択してください。

１）100 件未満

２）100 件以上 1000 件未満

３）1000 件以上

設問４：貴児童相談所において、児童福祉司や児童相談員、児童心理司など、社会調査や社会診断、児童や保護者への支援、関係機関との調整等の業務に直接従事している職員の人数を教えてください。（医師や弁護士、一時保護所の職員は含みません。）回答に際しては、児童相

談所での児童相談業務（児童心理司業務も含む）の経験年数別にご回答ください。（必須回答）

１年未満　　：（　　）人

１年以上３年未満　：（　　）人

３年以上５年未満　：（　　）人

５年以上１０年未満　：（　　）人

１０年以上　　：（　　）人

設問５：新入職員や児童福祉分野以外の部門からの異動者に対して、あらかじめ特定の職員を育成担当者として設定していますか？いずれか該当項目をひとつ選んでください。（本調査における「育成担当者」は SV に限らず、日々の業務の指導を行っている者を指します。）（必須回答）

１）あらかじめ特定の職員を育成担当者として指定し、設定している。

２）あらかじめ特定の職員を育成担当者に指定せず、（新入職員や異動者に応じて）その都度、適切な育成担当者を設定している。

３）特定の育成担当者を設定せず、状況に応じて先輩からの助言・指導を行っている。

設問６：（設問５において選択肢１または２を選んだ場合のみ回答する設問）育成担当者はどのような職員ですか。該当するものをすべて選択してください。（複数選択可）

１）所長・副所長・次長など

２）課長またはチーム長など貴児童相談所において所内の子ども虐待相談対応のマネジメントを担う職務にある者

３）１）２）以外の職員で、５年以上の児相経験のある職員

４）１）２）以外の職員で、２年以上５年未満の児相経験のある職員

５）１）２）以外の職員で、２年未満の児相経験のある職員

６）その他（自由記述：　　）

設問７：（設問５において選択肢１または２を選んだ場合のみ回答する設問）育成担当者は、同時に何名の職員の育成を担っていますか？過去３年間における、一人当たりの担当人数の最大値をご回答ください。（本調査における「育成担当者」は SV に限らず、日々の業務の指導を行っている者を指します。）

１）１名

２）２～４名

３）５名以上

設問８：（設問５において選択肢１または２を選んだ場合のみ回答する設問）特定の職員を育成担当者として設定し育成する方法において、特に課題を感じることを選択してください。（複数選択可）

１）育成を担当できるスキルや経験のある職員がいない、または足りない

２）育成を担当する職員の業務量が増え、育成担当者の負担が大きい

３）育成を担当する職員が多忙すぎて十分に対応できていない

４）育成担当者に育成方法が任されており、組織的・統一的な育成が難しい
（育成の仕方にばらつきがある）

５）特に課題は感じない

６）その他（自由記述：　　）

設問９：貴児童相談所では、新入職員や児童福祉分野以外の部門からの異動者など経験の浅い職員が、自分の担当ケースについてまわりの職員に相談しやすい環境があると感じますか？（必須回答）

１）育成担当職員にも、それ以外の職員にも相談しやすい環境にあると感じる。
または、育成担当者は決めていないが、誰にでも相談しやすい環境があると感じる。

２）育成担当職員には相談しやすいが、それ以外の職員には相談しにくい環境にあると感じる

３）育成担当職員にも、それ以外の職員にも相談しにくい環境にあると感じる。
または、育成担当者を決めておらず、誰にも相談しにくい環境にあると感じる。

設問１０：職員の育成において最も課題となっていることは何ですか？

（自由記述：　　）

（一時保護の要否判断など緊急性の判断について）

設問１１：通告を受けてから、緊急受理会議を行うまでの間に、どのような調査を行いますか？貴児童相談所において、一般的に行っている調査を全て選択してください。（必須回答）（複数選択）

１）通告情報の整理と事実確認を行い、確認が必要な事項を整理する

２）児童相談所の相談歴を確認する

３）市区町村に、住民票・移動歴・相談歴・検診歴について問い合わせる

４）当該児童が所属する機関（学校等）があれば、その関係者に児童の様子について問い合わせる

５）当該児童や家族を知るその他の関係機関（病院等）があれば照会を行う

６）その他（自由記述：　　）

設問１２：一時保護の要否判断など緊急性の高い状況下において、児童の安全確認についての情報を、どのような方法で現地と児童相談所で状況共有されることが多いですか？最も代表的な方法を選択してください。（必須回答）（複数選択）

１）現地から電話で状況を伝えて、判断決定することが多い

２）現地から電話だけではなく、メールやメッセンジャー（LINE や SNS など）も利用して情報共有して判断決定することが多い

３）現地との距離にもよるが、詳しい状況については時間的に可能である限り、児童相談所に戻って口頭で報告することを基本としている。

４）その他（自由記述：　　）

設問１３：貴児童相談所では、一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントシートを運用されていますか？（本調査における「一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントシート」とは、厚生労働省のものだけでなく、自治体が独自に作成したものも含みます）（必須回答）

１）運用している

２）原則的には運用している

３）運用していない

設問１４：（設問１３において選択肢１または２選んだ場合のみ回答する設問）貴児童相談所において、一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントシートは、どの程度一時保護の要否判断決定の際の根拠、判断材料になっていますか？最も近いものをひとつ選択してください。（必須回答）

１）リスクアセスメントシートの評価により一時保護の要否判断の決定を行っている

２）リスクアセスメントシートの評価は、一時保護の要否判断決定ための主な判断材料である

３）リスクアセスメントシートの評価は、一時保護の要否判断決定のための判断材料のひとつである

４）リスクアセスメントシートの評価は、一時保護の要否判断決定のための直接の判断材料というよりも参考情報である

５）リスクアセスメントシートの評価が、一時保護の要否判断決定のための判断材料にどの程度なっているかは、ケースバイケースである

設問１５：（設問１３において選択肢１または２を選んだ場合のみ回答する設問）貴児童相談所では、どのタイミングで、一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントシートを記入することが多いですか？最も代表的なタイミングを３つまで選択してください。

１）通告受付から緊急受理会議までの間

２）緊急受理会議において

３）緊急受理会議において一時保護の要否判断が必要となった際

４）緊急受理会議後の調査過程において

５）初期対応の妥当性を確認する際

６）その他（自由記述：　　）

設問１６：（設問１３において選択肢１または２を選んだ場合のみ回答する設問）一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントシートが記入し終わるよりも前に、一時保護の判断をせざるを得なかった経験がありますか？そういった経験がある場合には、その状況や理由を簡単にお書きください。

１）ある（自由記述：　　）

２）ない

設問１７：（設問１３において選択肢１または２を選んだ場合のみ回答する設問）一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントシートの評価では、一時保護の必要性があるという評価に達したが、諸般の事情から一時保護ができなかった経験がこれまでありますか？そういった経験がある場合には、その状況や理由について簡単にお書きください。

１）ある（自由記述：　　）

２）ない

設問１８：（設問１３において選択肢１または２を選んだ場合のみ回答する設問）一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントシートの評価では、一時保護の必要性があるという評価

に至らなかったが、諸般の事情から一時保護を行った経験がこれまでありますか？そういった経験がある場合には、その状況や理由について簡単にお書きください。

１）ある（自由記述：　　）

２）ない

設問１９：（設問１３において選択肢１または２を選んだ場合のみ回答する設問）貴児童相談所においては、リスクアセスメントの項目評価や記入方法について、担当者による入力のばらつきが大きくならないために、研修や個別指導などを行っていますか？（必須回答）

１）リスクアセスメントを記入する全員に対して定期的に研修や確認を行うことを基本としている

２）新入職員や児童福祉分野以外の部門からの異動者が相談業務を始める際に行っている

３）場合によって行なったり行われなかったりしている

４）特には行われていない

設問２０：貴児童相談所において、「結果的には深刻な事態は回避できていたが、一時保護の要否判断を行ううえで重要な情報が、判断時点では認知されていなかったことが後に判明した」という、いわゆる「ヒヤリハット事例」の経験はどの程度がありますか？（必須回答）

１）よくある

２）ときどきある

３）どちらともいえない

４）ほとんどない

５）ない

設問２１：緊急出動の要否や一時保護の要否などの判断において、特に課題に感じていることを全て選択してください。（複数選択可）（必須回答）

１）通告時点での情報が少ないため、判断が難しいことがある

２）通告時点での情報の信頼性に確証が持てず、所内でケースの重篤度についての評価が確定しづらく、判断が難しいことがある

３）担当者の調査情報だけでは情報が不十分でケースの重篤さの見極めが難しいことがある

４）担当者からの報告や連絡・相談のタイミングにバラつきがあり、対応のスピードにバラつきが生じることがある

５）所としては一時保護を検討する必要がないと認識しているケースにおいて市区町村から保護を強く要請され、調整の負担が大きいことがある

６）市区町村によって在宅支援でできる支援が異なるため、自治体によっては一時保護以外の選択が難しいことがある

７）一時保護したい重篤なケースであっても、保護所の定員や処遇状況に余裕がないなどの理由で優先順位をつけた判断をせざるを得ず、判断に悩むことがある

８）緊急時に、ケガや状況について報告・確認説明するのに、メールやメッセンジャー（LINE や SNS など）で連絡を取らざるを得ないことがあり、情報のセキュリティに不安がある

９）その他（自由記述：　　）

設問２２：緊急出動の要否や一時保護の要否などの判断において、さらに工夫が必要だと感じていることがあれば、書いてください。

（自由記述：　　）

（ＩＣＴ導入状況および電子データの蓄積・活用の状況について）

設問２３：貴児童相談所では、児童虐待対応専用の業務システムを利用していますか？（本調査で「業務システム」と表現する際は、児童相談業務の記録の保存や共有のために開発された

専用ソフトによる業務システムなどを指します。エクセルなどの一般的なソフト等を用いて管理している場合を除きます。）（必須回答）

１）業務システムを利用している

２）業務システムを利用していないが、一般的なソフトを使って、組織としてデータ管理している（エクセルなど）

３）業務システムを利用しておらず、手書き文書や文書作成ソフトで作成された文書をファイルに閉じて管理している

設問２４：（設問２３において選択肢１を選んだ場合のみ回答する設問）児童相談業務で取り扱う情報を、A「児童についての基本情報」、B「ケース経過記録」、C「写真等その他の記録」の３つに区分したとき、それぞれの情報はどの程度業務システムに保存されていますか？最も近いものを選択してください。（必須回答）

A「児童についての基本情報」について

１）詳細情報までほとんどすべての情報を業務システムに入力保存している

２）基本的には業務システムに入力保存しているが、詳細情報については、紙やWord ファイルなどで保存しており、業務システムに入力保存されていない。

３）一部の情報のみ業務システムに入力保存しており、ほとんどの情報は、紙やWord ファイルなどで保存しており、業務システムに入力保存されていない。

４）業務システムには児童の氏名・生年月日程度しか入力されておらず、その他の情報は入力保存されていない。

５）業務システムに一定の情報入力項目は設定されているが、どの程度の情報を入力するかは担当者によって異なっており、業務システムにどの程度入力保存されているかバラつきがある。

B「ケース経過記録」について

１）詳細情報までほとんどすべての情報を業務システムに入力保存している

２）基本的には業務システムに入力保存しているが、詳細情報については、紙やWord ファイルなどで保存しており、業務システムに入力保存されていない。

３）一部の情報のみ業務システムに入力保存しており、ほとんどの情報は、紙やWord ファイルなどで保存しており、業務システムに入力保存されていない。

４）業務システムに入力保存されていない。

５）業務システムにどの程度の情報を入力するかは担当者によって異なっており、業務システムにどの程度入力保存されているかバラつきがある。

C「写真等その他の記録」について

１）詳細情報までほとんどすべての情報を業務システムに入力保存している

２）基本的には業務システムに入力保存しているが、詳細情報については、紙やWord、その他の画像ファイルなどで保存しており、業務システムに入力保存されていない。

３）一部の情報のみ業務システムに入力保存しており、ほとんどの情報は、紙やWord、その他の画像ファイルなどで保存しており、業務システムに入力保存されていない。

４）業務システムに入力保存されていない。

５）業務システムにどの程度の情報を入力するかは担当者によって異なっており、業務システムにどの程度入力保存されているかバラつきがある。

設問２５：（設問２３において選択肢１を選んだ場合のみ回答する設問）データを利活用する際には、児童や家族に関する基本情報や対応内容についての情報が、それぞれの項目としてデータ保存されているほうが使いやすいと言われています。（例：自由記述のテキスト情報で「一時保護を行った」と記載されるよりも、「一時保護の有無」という項目に「有」というデータが入力される状態のほうが、データ活用が進めやすい）現在、利用している業務システム

において、入力項目としてデータを蓄積している情報について該当するものを全て選択してください。（必須回答）（複数回答）

１）氏名・生年月日・住所・家族構成・主訴・通告種別・日時などの、児童・家族・相談内容に関する基本的な事項が、システムの入力項目として存在する

２）一時保護の有無・一時保護を行った日・一時保護を解除した日・施設入退所日・入所先施設名などの対応内容に関する事項が、システムの入力項目として存在する

３）一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントが、システムの入力項目として存在する（業務システムにＰＤＦやエクセルなどを添付する方式ではない）

４）調査や面談についての記録が、事案別・日時別に、システムの入力項目として存在する（システムにＰＤＦやエクセルなどを添付する方式ではない）

設問２６：（設問２３において選択肢１を選んだ場合のみ回答する設問）業務システムの利用や運用において、課題になっていることがありますか？特に課題になっていることについて書いてください。

（自由記述：　　）

設問２７：（設問２３において選択肢２または３を選んだ場合のみ回答する設問）業務システムがないことで、デメリットや課題となっていることがあれば、書いてください。

（自由記述：　　）

設問２８：（設問２３において選択肢２または３を選んだ場合のみ回答する設問）業務システムが導入されていない理由、導入が困難な理由は何ですか？

（自由記述：　　）

（ＡＩの利用についてのお考えについて）

設問２９：これまでに対応してきたケースについての、一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントやケース記録のデータを統計的に分析し、ケースの傾向を把握するなど、データ分析を業務に活用していますか？（必須回答）

１）日常的に活用している

２）活用したことがある

３）活用したことがない

設問３０：（設問２９で選択肢２または３を選択した場合）一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントやケース記録のデータを統計的に分析し、ケースの傾向を把握するなど、データ分析を業務に活用できるようになったほうがよいとお考えですか？また、その理由についてもお聞かせください。（必須回答）

１）活用できるようになったほうがよい

２）どちらかといえば活用できるようになったほうがよい

３）どちらともいえない

４）どちらかといえば活用する必要を感じない

５）活用する必要を感じない

設問３１：（設問２９で選択肢２または３を選択した場合）設問３０のように選択した理由についてお聞かせください。

（自由記述：　　）

設問３２：（設問３０で選択肢１または２を選択した場合）一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントやケース記録のデータを統計的に分析し業務に活用するうえでの課題にはどんなことがありますか？現在の状況に最も近いものを選択してください。（必須回答）

１）一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントやケース記録を電子データとして保存・蓄積していないので、分析や活用ができない

２）一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントやケース記録を電子データとして保存・蓄積しておらず、今後それらの電子データ化や分析に予想される業務コストや財政コストが大きすぎないかと思われる

３）一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントやケース記録を電子データとし保存・蓄積しているが、分析をする人や時間がない

４）一時保護の要否判断のためのリスクアセスメントやケース記録を電子データとして保存・蓄積しているが、分析して業務に活用することについて組織的な合意が取れていない、または合意を取ることが難しいと感じている

５）その他（自由記述：　　）

設問３３：（本設問は、お手元の「AI および「AI を活用した緊急性の判断等に資するツール」についての説明資料」の内容が前提となっているものです。）将来的に、ケース記録をデジタルデータとして蓄積し活用する施策が進むものと考えられます。例えば、タブレットなどのデジタルデバイスから、現場の相談対応でリスクアセスメントやケース記録を入力すると、過去のケースのデータから推論した、ケースの傾向や重篤度などが参考情報として即座に提示されるなどの活用方法です。このようなデジタルデータの活用（ＡＩの利用等）に対する、期待と不安について、当てはまるものをすべて選択してください。（必須回答）（複数回答）

１）職員の業務負担の軽減に役立つと期待される

２）職員の業務負担が変わらないまたは増加する不安がある

３）職員が判断する際の補助に役立つと期待される

４）職員が判断する際のさまたげになる不安がある

５）速やかな過去事例の確認等に役立つと期待される

６）事例等が提示されることで自主的な思考のさまたげになる不安がある

７）タブレット端末等を使い慣れた職員が積極的に利用することが期待される

８）タブレット端末等に不慣れな職員が使いこなせない不安がある

９）導入時のコストに不安がある

１０）運用コストに不安がある

１１）個人情報保護に関する規則等との整合性に不安がある

１２）タブレット端末の持ち出し等の利用ルールの制約に不安がある

１３）その他（自由記述：　　）

設問３４：（本設問は、お手元の「AI および「AI を活用した緊急性の判断等に資するツール」についての説明資料」の内容が前提となっているものです。）児童相談業務に関するデジタルデータの活用（ＡＩの利用等）やデータベース化に対して、どのようにお考えですか？期待と不安などご自由にお書きください。

（自由記述：　　）

以上